

本戦略について

策定趣旨

- 少子・超高齢社会が進展し、本市においても将来的な人手不足や財政制約が高まることが想定されます。
- 近年のデジタル化の進展や、データ流通を支える通信インフラの高度化、IoT関連機器の小型化、低コスト化等により、これまで取得できなかった膨大かつ多様なデータの取得が可能となりました。
- このような社会情勢下において、市民生活の質を維持し向上させていくためには、データに基づいた事業の立案を推進し、事業等の効率性や有効性を高めていくことが必要です。
- また、公的分野においては、市民に対する説明責任の観点から、現状や課題の把握、事業等の進捗や効果をデータに基づき説明し、取組に対する市民の納得性を高める必要があります。
- 本戦略は、このような状況を踏まえ、目指す姿の実現に向け、取り組むべき具体的なアクションや方向性などを明確化し、全庁的・体系的・継続的に推進することを目的として策定します。

期間

令和6年度(2024年度)から令和9年度(2027年度)までの4年間

- 本市を取り巻く環境変化や取組の進捗状況を踏まえて、必要に応じて内容を見直します。

目指す姿

- 本市のめざすまちの姿である「上質な生活都市」の実現に向け、データの利活用を進めることで、多様化・複雑化する市民ニーズを把握し、きめ細かく対応するとともに、データに基づいた効率性・有効性・納得性の高い事業等の立案と展開を目指します。



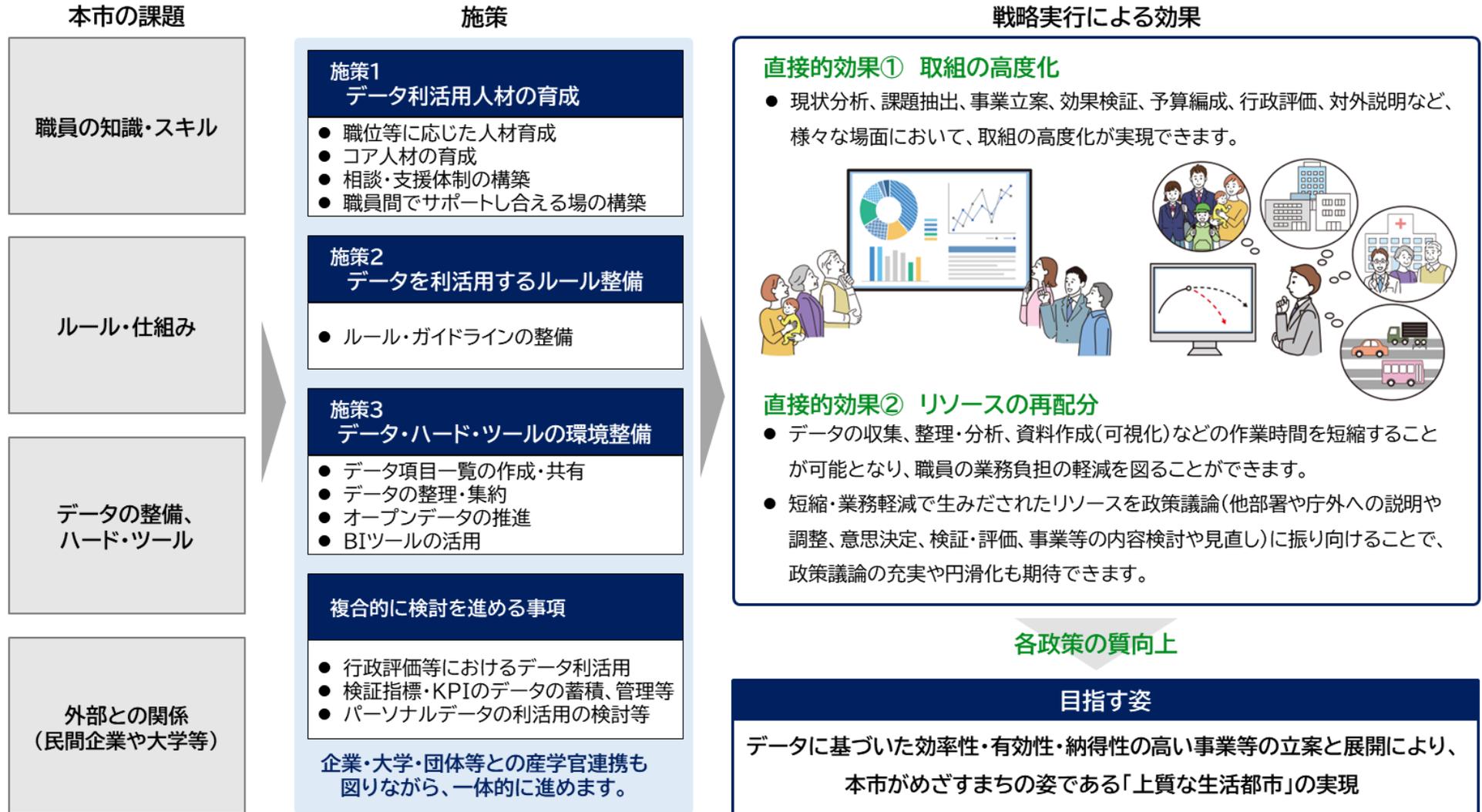
位置づけ

- 熊本市総合計画の下で展開する政策・施策等や各個別計画について、データ利活用の側面から効率性・有効性・納得性の向上を図るための戦略として位置付けます。



基本方針

本市の現状や課題への対応策として、3つの施策を中心に取組を推進し、目指す姿を実現します。



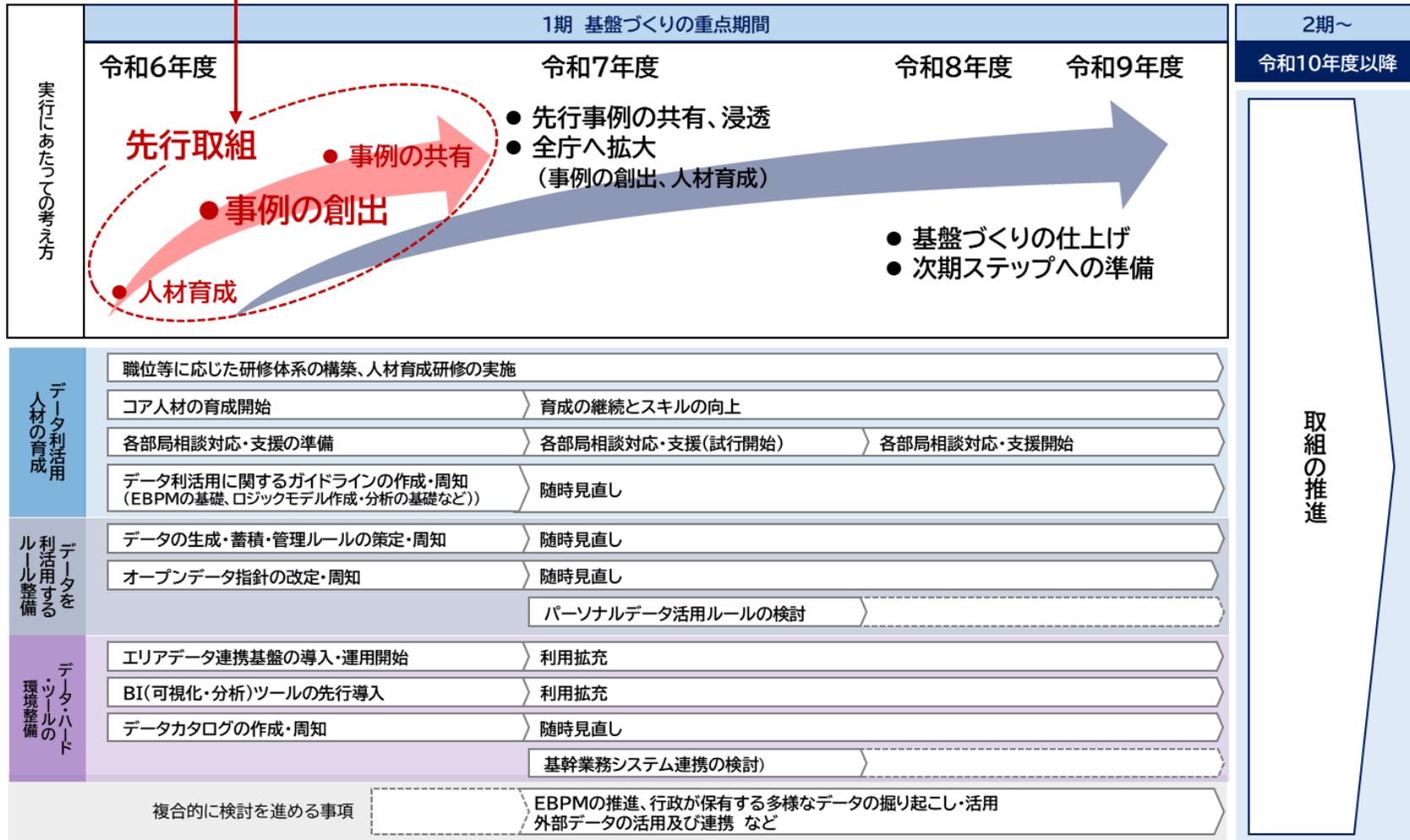
ロードマップ

本戦略全体をけん引する先行取組

- ① コア人材の育成と相談・支援体制の整備
- ② データに基づく事業立案等の事例創出と共有
- ③ 可視化分析ツール・データ連携基盤等の利活用環境の整備

本戦略の期間を「基盤づくりの重点期間」と位置づけ、目指す姿や方向性を庁内で共有し、職員一人ひとりがデータ利活用の重要性を認識できるよう留意しながら、各施策を展開していきます。

特に、令和6年度(2024年度)は、左記の3つの取組を先行的に進めます。



推進体制

令和6年度(2024年度)に設置する「(仮)データ利活用推進本部」の下、全庁横断的にデータ利活用を推進します。

なお、基本的なデータ利活用は、各部局が主体的に取り組むことを原則としつつ、データ戦略課において、データ利活用環境の整備、相談対応・伴走型支援等の各部局の取組に対する下支援を行います。

(仮)データ利活用推進本部

- 本戦略の進捗状況の把握
- 継続的な事業の拡充や展開、見直しを実施
- 組織内に統括責任者を設置し、全庁横断的な体制を強化

各部局の役割

基本的なデータ利活用の主体

施策や事業等の実施主体としての役割

- データ利活用に関する知識やスキルを向上していきます。
- 「経験・勘・思い込み」ではなく、「データに基づく」事業の立案や事業の評価、既存事業の見直しを行います。

データ利用者としての役割

- 積極的に統計データやオープンデータをエビデンスに利用します。
- 課題がある案件に関する更新頻度の高いデータは、積極的にデータを確認します。
- データの積極的な可視化や分析を行い、現状把握や課題整理を行います。
※今後、可視化・分析ツールを導入予定

データ所有者としての役割

- データを利活用しやすくするため、基準に沿ったデータの生成・蓄積・管理を進めます。※今後、基準を策定し共有予定
- データの利活用を進めるため、保有データの積極的なオープンデータ化を進めます。※今後、基準を策定し共有予定



データ戦略課の役割

データ利活用環境の整備、相談・伴走型支援の主体 (必要に応じて、高度なデータ分析も担当)

- データ利活用に関する研修の場を提供します。
- データ利活用に関するガイドブックを準備し提供します(基本的なEBPM、ロジックモデル作成、分析の基本等)。
- データ項目一覧(データの所在やデータの概要が分かるもの)を準備し提供します。
- データ分析や可視化の際に効率化・省力化に繋がるツールを導入し提供します。
- データの生成・蓄積・管理に関するルールを整備し共有します
- オープンデータ化のためのフォーマットの提供します。また、必要に応じオープンデータ取組指針を改定します。

まずは、基本的な環境整備を進め、取組を通じてデータ利活用環境の改善や拡充を進めていきます。また、これらに関する相談や支援の体制づくりも進めていきます。